

## 進行・再発大腸癌

## セツキシマブ療法レジメン

治癒切除不能進行・再発結腸直腸癌（セツキシマブ）

C-07

< 7日間隔・1コース～制限なし >

治療日		初回	2コース 目以降 第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目	第6日目	第7日目	第8日目
治療内容										
検査	EGFR検査（発現） 1～2週前									
	採血	○	○							○
診療	投与中、投与終了後1時間バイタルチェック	○	○							○
	検査結果	○	○							○
	副作用の問診	○	○							○
治療中止 基準	①重度のinfusion reactionの発現 ②Grade1-2のinfusion reactionで 投与速度を減速した後に再度発現し た場合	—	—							—
	③Grade3以上の皮膚症状でGrade2に 回復し減量投与し4回目のGrade3以 上の皮膚症状が発現した場合									
	④Grade3以上の皮膚症状がGrade2に									
	①生食100ml＋デキサート注3.3mg× 2A＋ポラミン注5mg×1A 点滴静注【30分】	○	○							○
	②生食500ml＋アービタックス (400mg/m <sup>2</sup> ) 初回のみ 点滴静注【2時間】	○	×							×
②生食250ml＋アービタックス (250mg/m <sup>2</sup> ) 2回目以降 点滴静注【1時間】	×	○							○	
③生食100ml 点滴静注【1時間】	○	○							○	
減量基準	Grade1-2のinfusion reaction時処置をしながら投与速度を10mg/分から5mg/分以下に減速									
	Grade3以上の皮膚症状の発現が初回投与の場合、Grade2に回復後250mg/m <sup>2</sup> で投与。 2回目の発現時、Grade2に回復後200mg/m <sup>2</sup> で投与 3回目の発現時、Grade2に回復後150mg/m <sup>2</sup> で投与 4回目の発現時、投与中止。									

### 看護のPoint!!

①アービタックス投与中と投与終了後1時間はバイタルサインなどinfusion reaction発現を観察する。

軽度～中等度：悪寒、発熱、浮動性めまいなどの症状

重度：呼吸困難、気管支痙攣、蕁麻疹、低血圧、意識消失またはショックなどのアナフィラキシー様症状、まれに心筋梗塞、心停止

②予防的スキンケアにより皮膚症状発現が低下する

投与開始と同時期に直射日光を避け、外出するときは皮膚の露出を避ける、保湿クリームなどのケアが必要。